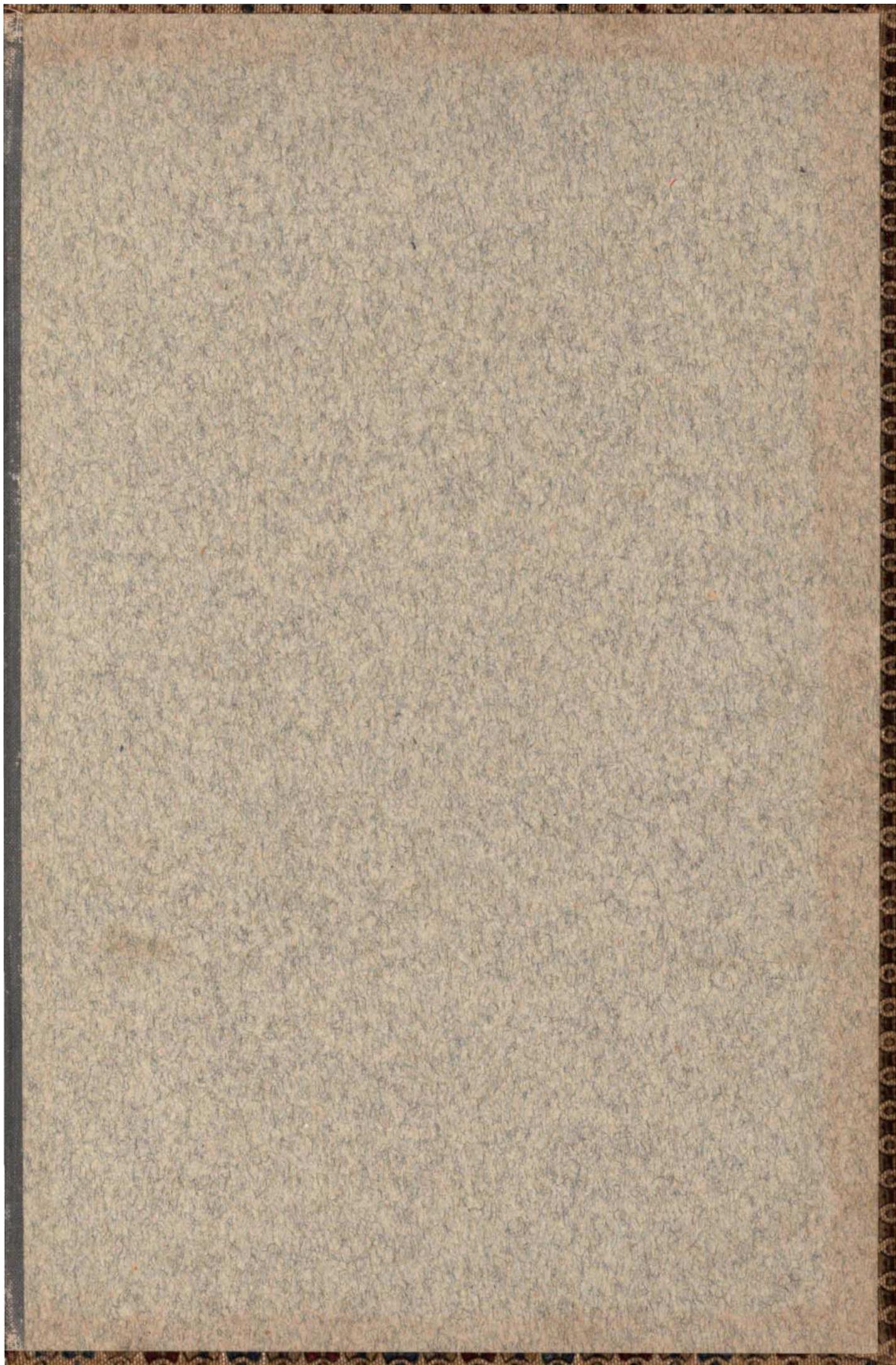


大正十二年
九月一日

大震災記念寫真帖







前神川奈縣知事安河内稚杉閣下題字
神奈川縣知事清野長太郎閣下序
神奈川縣技師榊井照藏氏編纂

大正十二年
九月壹日

大震災記念寫真帖

(非賣品)

序

一昨秋關東地方ニ於ケル大地震ハ實ニ曠古未曾有ノ慘事ニシテ其被害ノ激烈ナルコト震度以上ナリシ所以ヲ考フルニ其原因多々アルヘシト雖建築、道路、橋梁其他諸般ノ文明的設備ヲ經營スルニ當リ深キ注意ヲ地震ニ措カサリシコトハ蓋シ其主タル事由タラスンハ非ラス今後復興事業ニ關係スル者深ク之ニ鑑ミ十二分ノ注意ヲ拂ハンカ將來若シ不幸ニシテ再ビ激震ニ際會スルモ斯ル慘禍ニ陥ラサルヘシ此寫眞帖ハ震災直後榊井技師ヲシテ被害ノ實況ヲ踏査撮影セシメシモノニシテ獨リ將來ノ參考ニ資スルノミナラス大震災ヲ永久ニ記念スル無比ノ好資料タルヲ信ス今裝帖成ルヲ以テ一言ヲ題ス

大正十四年四月

日

神奈川縣知事 清野長太郎

天意不可測

安河內程老



市 濱 横

同日二は遊紅大るた々炎し發を火所る至てしと果結の然必れさ壊破部全は物造建の他其屋家てしに烈激てめ極度其やるす來襲の震地大てしと如突も市濱横しれら知に界世を名其てしと灣港的表代の國我年餘有十五來以
黄るせ影撮りよ上坂藏地に後直災震に實は圖りせ化と獄地熱焦のく全は時一等はは行に所隨は奪掠き導に安不心を人々益に共と震餘るた々類は諸輩昔流の種諸し出を餘萬三者傷死坪萬百三に實積面此りせ盡め紙を部全



神奈川縣廳

神奈川縣廳の建築は、大朝一も大震災に災に見舞われ、比其に中縣府國全て警備莊の築建りな景光るため眺を下廊の手左てり入りよ圓支面正は圖、りれ終り



横濱市本町通

横濱市本町通の端左てしに景光の害被通町本るためしせ像想を市部の國外見一てしに踏街るた然整も最中市濱横りな骸殘の所査檢糸生は端台局郵便濱横はるせ潰倒方前其、のし部署警縣川奈神は



橋 棧 港 濱 横

きべ得し用使てじう辛もに幸がしせ失焼を分部大其め爲の災火も橋棧大きべ得しけ附横を船巨の噸万數
 視監關稅及景光の時當は圖、りた得を宜便の大多にけ根陸の品運救、に運輸の民難避め爲しせ存残分部一
 示を骸残の係務海部



壁 岸 港 濱 横

吐吞を半大の貨物入出輸國が善し有を備設揚陸るな全完と屋上の積面るな大廣も而し留繋を休船の大巨
 のソーレタ、壊倒の屋上てしに近附壁岸壁一十部一其は圖りたれらせ壊破を部全其は壁岸の所々四しせ
 示を景光るす憎慘等覆顧



院 學 東 關

野村中はるゆ見に面前てしに標有るせ潰倒の院學東關立私るたへ聲てしと然巍に上丘の町田太南市濱横
りな跡焼の面方



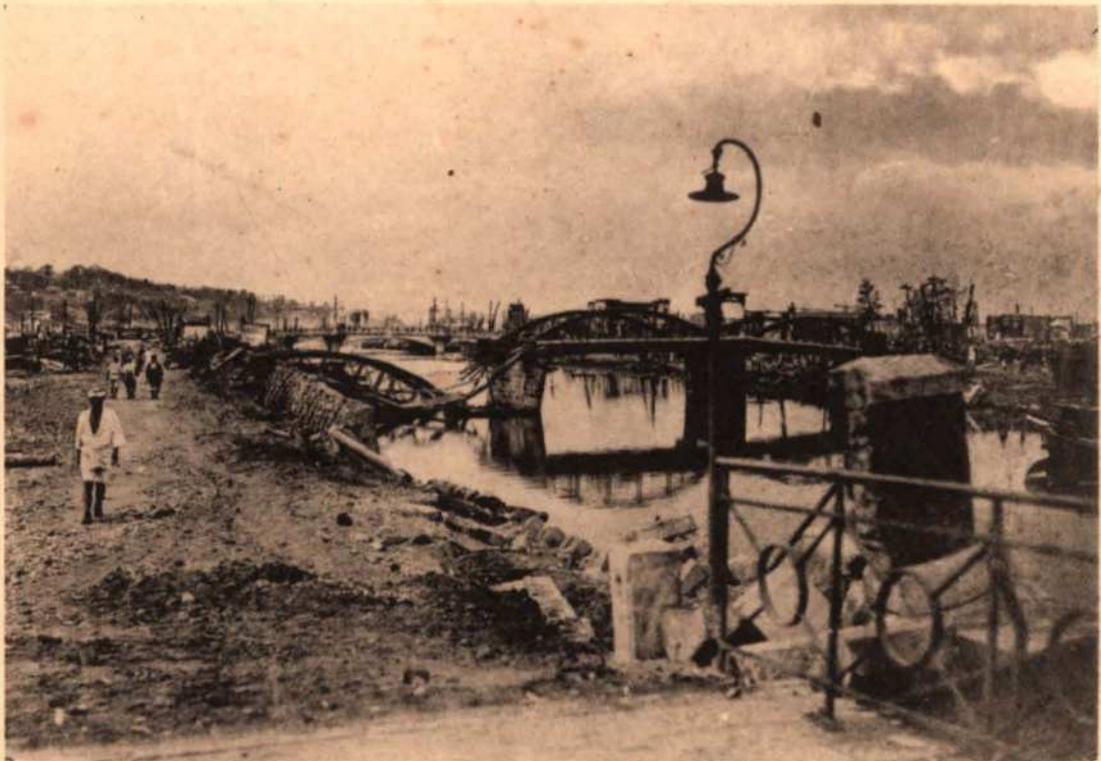
地 留 居 國 民 華 中

敬其く知る見に圖め爲しりな造瓦煉き古分部大は地留居國民華中しりた一の所名濱横てしと街京南謂所
りせ達に千數者傷死くしだ甚も最害



坂 毛 野

と震地め爲しりな割り堀の丈敷は坂毛野しりた路捷の一唯るづ出に面方町木佐勢伊りよ面方部戸市濱横
りれなと様有き遺物じ生なれ崩崖き如の圖に時同



橋 國 豊

能事る渡りなと態状き如の圖に時同と震地もるな一の橋るな要重るす緒連なと外關と内關謂所の市濱横
りれ至にる寸生な者死候の數無に帶一岸河近附此拘不もしり有所難避き如の圖公はに岸對にめ爲すは
りな橋田吉はる伊見にか透

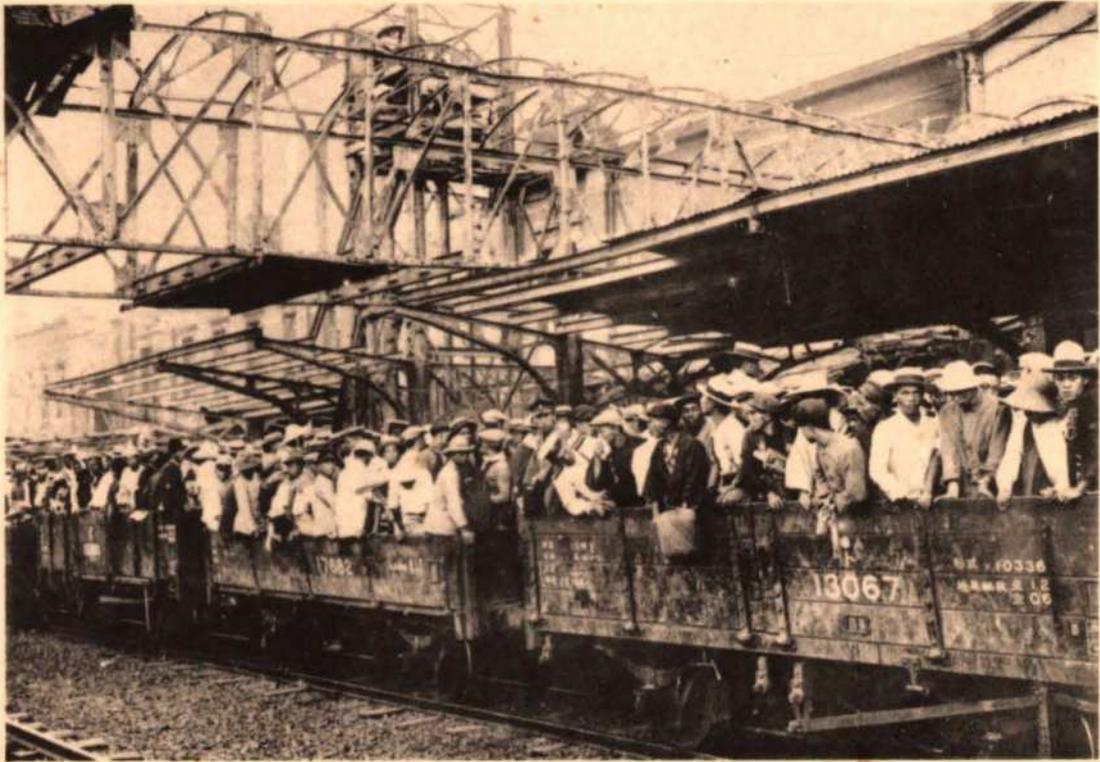


(一のそ) 場工社會式株績紡斯瓦士富

從てしに大甚度程の害被け丈しりな場工大の敷有中社會績紡は場工木もたれらて建に町谷ヶ程外市濱横
りれ至にす出な者傷死の數多亦女工の中業



(二のそ) 上 同



車 列 難 避

に日敷後災り依に力努の隊兵工てしに幸もしひ遭に厄其亦道鐵れらせ壊破は開機通突るゆら有に時同と震地
す示を部一の中其は圖すらかべす狀名に實難混の時此、りた得をるす始開を轉運線單の間濱京てじ辛てし



校 學 小 常 尋 部 戶 市 濱 橫

の等彼に何如は震余るた々類も而れきほ亡に共校學が及庭家其は童兒學小の万數内市濱横に時同と災震
りな景光むしそいに業學しに中の安不の童兒るな憐可等之は圖よ事しぜか脅を心き幼



橋 郷 六

修理急應の隊兵工め爲しりな微輕害被てしに幸は橋郷六るせ架に川摩多ゝる流な境の縣川奈神と府京東
りな景光るむしせ行通てし限制を重荷に下の備警隊軍は圖、りた得なき無障支に通交り依に



社 會 式 株 氣 電 京 東

場工大の一隨界業斯は場工本てしに標有の潰倒傷工建階三土凝混筋鐵部一の場工崎川社會式株氣電京東
りせ母を者傷死の數多下以士博の所驗試も員職の中業従らか折てしに



校 學 小 崎 川

りな景光るせ理整開發を類械機器具の員職て於に校學小等高常尋崎川るたれき壊破もに殘無



人 鮮 と 町 島 田

なき無事其力届はてに町島田もしれら見て以を眼の感慥は人鮮に待りあのもつ放を語盡言流の★種は時當災變
りな部一の景光るせ護保容收にタツラバを人鮮時當は圖しべふ云と功るな大はるれ當に護保が之てん進し振主



橋 見 鶴

りな微程度程の災震帯一方地此てしに幸共れな一の梁橋るな要重てしにのしるせ架に川見鶴中道國濱京
りた得たさな障支に通突にめ爲すぎ過にるせ下沈の壑橋にか僅く知る見に區亦も橋本も爲し



木 並 松 の 道 海 東

多のしるたれさ倒はに震地大の回今も木並松るれなと物名の道海東へ登てしと々亭ち保を跡樹の年百數
す示を標るて甚隙を道國が木並松るたれ倒てに内地町窟戸に區りえ數



橋 島 高

れ成りよ杭込打の製土凝混筋鐵てしに橋るせ架に川尾柏てに傍近の町塚戸中も道懸る至に船大りよ塚戸
りたじ生な害被き如のく斯め爲の折挫の脚橋る



道 墜 の 町 塚 戸

りれ至にふ失見を日入く全し墮崖に口入端雨其く如の置に道墜るおに町塚戸中道懸る至に木厚りよ塚戸